

スポーツイベントを中心に盛り上がった 「イベント Japan 2020」



写真1 アルゴアクティブと日本スラックライン連盟のブースでは、プロライダーによるパフォーマンスが行われていた。



写真2 ラディックスは、1対1で対戦するサイバーホッケーで注目を集めた。

インタークロス・コミュニケーションが主催し、日本イベント産業振興協会、日本イベント協会、日本イベントネットワーク協会などが協力者として名を連ねた「イベント Japan2020」が、2月13日、14日に東京ビッグサイト青海展示棟で開催された。出展者が100に満たない小規模な展示会であったが、けっこう盛り上がっていた。

第13回を迎えた今回の展示とデモの主流はスポーツイベントで、主な出展者としては、アルゴアクティブ/日本スラックライン連盟、ラディックス、ダスキレントオール、BRAVO、静岡パブリック・リレーションズが挙げられる。

アルゴアクティブと日本スラックライン連盟は、「スラックラインを始めよう」という掛け声のもとに共同でブースを構えた。

アルゴアクティブは、ドイツのIDスポーツ社の代理店で「GIBBON」ブランドのスラックライン関連商品を販売している。今回ブースには、初心者用のナイロンベルト

(幅約5cm)が張られ、その上に立ったり歩いたりするトライアルの場を設けていた。ブースの女性プロライダーは、「スラックラインは、綱渡りとトランポリンを融合したようなスポーツ」と語りながらいろいろな妙技を披露して来場者の注目の的になった。

ラディックス(東京都墨田区太平)は、「ゲーム感覚で楽しみながら体と頭の運動をしませんか」と呼びかけながら「サイバースタジアム」の売込みに余念がなかった。今回の会場では、センサー技術、プロジェクションマッピング、LEDパネルフロアなどを駆使して、サイバーホッケーのデモを実施した。ホッケーと言っても、チームで行うわけではなく、単純な1対1の対戦ゲームである。

「イベントのすべてをプロデュース」をモットーに掲げたダスキレントオール(大阪府吹田市)は、テニスのティースマッシュ、世界最少のモータースポーツなどでブースを盛り上げていた。担当者によれば、これらの他に、エアーサッカー、バット

リング、バスケット、アームレスリング、カーリングゲームなどの遊具も揃えているという。モータースポーツは、「タミヤ ミニ四駆」を使って競うゲームで、会場には、ミドルコースセット(全長84m)が設置され、タイムアタック大会への参加を促していた。レンタル費用については、86,400円/1泊2日と語っていた。

BRAVO(本社:愛知県安城市)は、インフレーターブル技術(空気圧を利用した技術)による様々なスポーツ製品を並べ、実際に設置されている現場の映像を上映しながら売り込んでいた。エアプール、エアストレッチ、ウォータースライダー、エアトランポリンなど数えきれないほど様々な水上エアー遊具が揃っているのには驚いた。ブースの担当者によれば、「アミューズメント、スポーツ用以外に、防災用のバルーン」の製作も行って社会貢献をしている」という。

静岡パブリック・リレーションズは、イベントコンテンツとして「キッツ・ボルダ



写真3 ダスキンレントールは、来場者にテニスのティスマッシュの体験を促していた。



写真4 アイレスは、横 10.8m、高さ 3mに及ぶ超横長リフタービジョンで来場者を魅了した。

リング」を出展して「販売、レンタルどちらでもOK」とPRに余念がなかった。この他、エアバットニング、エアアーチェリー、マウント富士クライミングなども提供が可能という。

次いで、アイレス、ディスプレイジャパン/デイズヌーベル、エス・デー、オフィス・サウスなどによる多彩な集客・販促用映像システムが目についた。

アイレス（東京都江戸川区臨海町）は、「Vision Mover V-CHANGER」と名付けた同社オリジナルビジョンカーを前面に押し出していた。屋外イベントに最適と謳うこのビジョンカーには、250インチ、6mmピッチのLEDディスプレイが搭載されている。今回は、この車を2台後部で接続して、横 10.8m、高さ 3mに及ぶ超横長ディスプレイで来場者を魅了した。同社はこの他に、屋外専用 65インチ 4K液晶ディスプレイ、透視型アクリルディスプレイも紹介していた。後者については、「アクリルプレート越しにだけ映像が見える新感覚のディスプレイ」とPRに余念がなかった。サイズは、

55インチ、43インチ、15インチの3種を揃えているという。

ディスプレイジャパン/デイズヌーベル（本社：東京都千代田区）は、「3Dホログラムファンディスプレイ」を目玉にして出展した。LEDを装着したブレードを高速回転させて、製品、ロゴ、キャッチフレーズなどの映像を浮遊させるディスプレイで「空間演出の世界が広がる」と説明していた。ブレードのサイズは、43cmと50cmの2種があり、解像度は前者が450 x 224、後者が576 x 576とのことであった。

エス・デー（本社：栃木県那須郡那須町）は、3Dトリックアート壁画を出展して「周囲の環境に溶け込み、日常の感覚からほど遠い場所に非日常を生み出し、見たものにアレ?と思わせる不思議な違和感を創り出す」のがポイントと解説していた。同社の歴史は古くすでに30年以上に渡って制作を続け、トリックアート展の企画・制作も行っているという。実績としては、栃木県那須町の「那須とりっくあーとびあ」、東京・お

台場の「東京トリックアート迷宮館」、神奈川県横浜の「トリックアートクルーズ」などを挙げていた。

オフィス・サウス（本社：東京都新宿区）は広島テレビ放送との共催で、シャープ製の持ち運べるコミュニケーションロボット「ロボホン」の新しいソリューションを提案して関心を呼んだ。その一つが「絵本読み聞かせイベント」だ。タイトルの通り絵本をロボホンの前にかざしてページを開くと、ロボホンが読み上げるという仕組みになっている。同社は、この他「ロボサイネージ」「旅するロボホン」「高精細実写VR」「SNS連携撮影ツアー」などのPRも行っていた。詳しい説明は聞けなかったが、技術的にはリコー、Evixar、ニコン、はなか、ハンズプロなどの協力を得ているという。

既述の9件の展示以外で目についたのは、Mintomoとドゥ・サイエンスだ。

「世の中のおもしろくないモノをゲーム回数でおもしろくする」をモットーに掲げた**Mintomo**（本社：東京都大田区田園調布）は、昨年に引き続いて声紋認証で利用者を確認



写真5 オフィス・サウスは、コミュニケーションロボット「ロボホン」を使って「絵本読み聞かせイベント」を行って意表を突いた。



写真6 特設ステージでは、「二胡ライブ」(演奏：ティ・カオン)のショーが行われ注目の的になった。

するプラットフォームアプリ「KOEPASS」を紹介し、スマホを使った簡単なデモを実施していた。高額なイベントチケットの転売を防ぐために購入者と使用者が同一と確認した場合のみ有効化されるというこの声紋認証電子チケットシステムに加えて、今回は「声スタンプ」ビジネスを売り込んでいた。スマホを使い音声による簡単な操作で、即時電子記帳ができるシステムである。

「水と共にある暮らしをデザインする」をキャッチフレーズに掲げたドゥ・サイエンス(本社：東京都港区六本木)は、1986年設立の噴水や水景施設の企画・施行専門メーカーである。今回は、レンタルを前提とした音楽噴水ショーの華やかなデモを行って注目の的になった。演出は、DMX制御により噴水、照明、音楽を一体化したシンクロプログラミングを使っている。実績を聞いて見たら、森のナイトカフェ(千葉県流山市)、関西音楽花火噴水ショー、ハウステンボス(長崎県佐世保市)、ホテル三日月 富士見亭(千葉県木更津市)、マースガーデンウッド御殿場などを挙げていた。

前述した展示とデモに加えて、11:00から17:30まで特設ステージを使って多様なショーが行われて盛り上がりを見せていた。時間の都合で全体をカバーできなかったが、中国文化センターと太陽国際(東京都足立区綾瀬)がスポンサーになった「二胡ライブ」(演奏：ティ・カオン)を初めて見聞きし、G-Rockets(本社：東京都中野区本町)が提供した「Kurukurunによる新体操パフォーマンス」を楽しむことができた。

最後に付け加えるとすれば、昨年バルール、ワン・ステップ、コーエイ、スペシャルイベントの4社により繰り広げられたVR(仮想現実)のデモが、今年は広島テレビ放送の「実写VRの最高峰、バーチャルツ

アー、8Kを凌駕する、超高精細パノラマビュー」1件のみであった。VRはイベント向きだと思うが、ヘッドセットを装着するわずらわしさが影響しているようだ。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH **CCTスーツケース 90cmφ型 2タイプ有り**
緊急報道 **衛星通信用超小型可搬アンテナ**
ハイビジョン映像伝送 Suitcase CCT Satellite Communications Terminal
Ku-band/X-band

5分で運用開始

IATA対応収納ケース
その他にも1ケース収納型から3ケース分割型など各種ケースあり

エーティコミュニケーションズ株式会社
<http://www.bizeat.jp> TEL : 03-5772-9125 Communications k.k.